

仙南けやき教室便り ⑧

「次は自分のちからで」

ちょっと、自分のことを、思い出してみませんか。

これまでの人生の中で、

落ち込んだり、悩んだり、不安に押しつぶされそうになったことがあったと思います。

そう・・・ 私にもありました。

でも悩みに悩んだ末に、自分の心と向き合って、一步踏み出してきたと思うのです。

そう！ 目の前の子どもも一緒！

いずれ訪れる、次の一步は、自分のちからで踏み出すはずです！

そのために、大人ができることの1つは・・・

「子どもをあれこれ動かそうとしないこと」

大人が焦っているときの働き掛けは、子どもの負担になっていることが多いです。

このような状態のとき、子どもの心は自分自身には向かず、大人の顔色や言動に向いています。

これでは「次の一步」は生まれづらいと思います。

まず、子どもが「ここにいていいんだ」と思える空間の中で、

心の中の「楽しいこと」「うれしいこと」「苦しいこと」「今のこと」「これからのこと」に出会ってほしいと思います。

そこが大事なスタートです。

そして隣には「不登校でも大丈夫」と思う大人が寄り添っていてくれたら・・・心強いです。

「そういえば、こんなこと」

以前、通っていた中学生のお母さんから電話。

高校生になった我が子の話を聞かせてくれました。

そして、最後に

「実は今日は、子どもが初めて、

けやき教室に行った日だったんです。。」と。

そうそう。。

あの日から一緒に、子どもを励ましたり、時には突き放したり。。

子どもはこの日を忘れていくかもしれないけど、

親にとっては忘れられない日なんですよ。

